

病院運営の経験を生かしBCPマニュアル策定まで支援

施設と運営の両面から災害に備える

災害多発時代です。活動期に入ったと言われる地震による災害、豪雨や台風による風水害、……と、立地に応じた災害リスクの想定が重要です。医療機関がその想定に基づき作成すべき備えが事業継続計画(BCP)です。連載第2回では、災害に備えようとする医療機関の取り組みを、私たちが施設面だけでなく運営面からも支援した事例を紹介します。

災害時、電気やガスなどライフラインが途絶する一方で、災害を原因とする負傷者の発生に伴い医療需要は高まります。従って病院には発災直後の被害を抑え、可能な限り早期復旧することが求められます。

また災害時に求められる役割は、病院によって異なります。その役割に応じた医療気風を明らかにし、ハードとソフトの両面にわたる備えを用意しておくことが大切です。

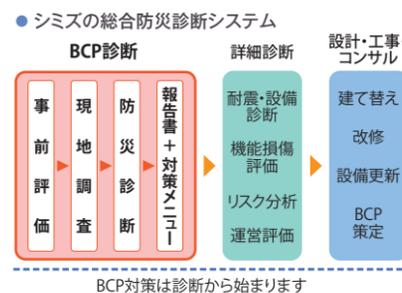
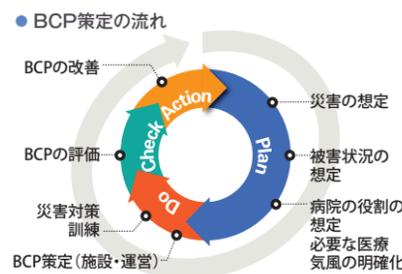
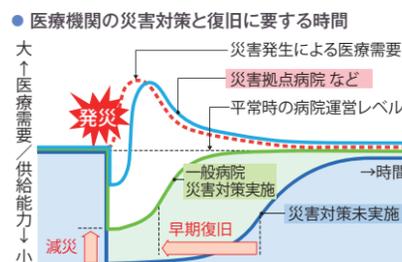
病院のBCPは自院の役割設定から

このハード・ソフト両面にわたる備えこそ、BCPの中に位置付けられるべきものです。BCPの策定の流れを右中の

図に示したように、地域の災害特性を踏まえた被害状況や、必要とされる医療レベルなどの想定を行い、自院がどのような医療を提供するのかが設定されます。災害時の人の役割や動き、保有施設をどう使うか、必要な設備は何か、などを検討します。さらに、想定で訓練を実施してBCP内容を検証し、そこで課題が見えてくればフィードバックします。こうした一連の流れを繰り返し、スパイラルアップすることで、より実効性の高いBCPが策定できます。

BCP診断に基づき具体的な対策を提案

清水建設では立地の災害リスクを評価し、建物の耐震性やインフラの状況



などを総合的に診断します。必要に応じて詳細診断を行い、それらの結果を踏まえて、設定した災害時の医療機能にふさわしい施設・設備や運用まで、BCPを提案します。

様々な技術を駆使して災害に強い病院をつくる

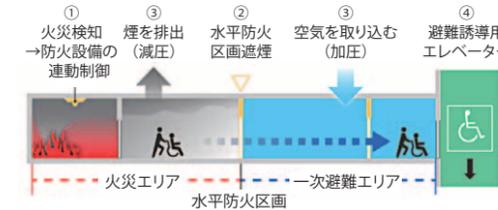
立地による災害リスクを総合的に評価し、病院が目指す災害時の役割を果たせるような建物・設備を整備した事例を紹介します。

医療法人社団武蔵野会TMGあさか医療センター(埼玉県朝霞市、446床)では、災害時の入院患者の治療継続を目標として、様々な災害対策技術を組み合わせて施設整備を行いました。例えば近隣の河川からの浸水リスクを低減するため、1階床の高さを周辺地盤より高くして防潮堤を設置。また、地震の揺れによる人や医療機器などの被害を小さくするために、免震構造を採用しました。合わせて、電気や水など

COLUMN シミズのBPC技術

「病院火災避難サポートシステム」

病棟避難は自力で移動できない人が多く、階段を使った避難が困難です。出火階に火災の影響を受けにくい「一時避難エリア」をつくり、ベッド搬送などにより避難できるようにすることが重要です。「病院火災避難サポートシステム」は、火災対策技術を組み合わせ、入院患者の避難をサポートする仕組みです。



①「シミズ火災フェイズ管理型防災システム」で防火設備の起動を素早く自動的に行う ②水平防火区画で火災の拡大を防ぐ ③空気の陰陽圧制御で煙の侵入を防ぐ「シミズハイブリッド防排煙システム」 ④非常用エレベーターを「避難誘導用エレベーター」として設計

の供給ができる設備を整えました。

熊本市内のリハビリ病院でマニュアル作成と訓練実施を支援

災害拠点病院では、2019年3月までにBCP策定とそれに基づく研修・訓練を実施することが、指定要件に加わりました。今後BCP策定の流れは、災害拠点病院以外にも広がっていくものと思われます。

こうした流れをいち早く実践している

のが、医療法人堀尾会熊本託麻台リハビリテーション病院です。堀尾会では2018年5月にBCPを策定しました。

清水建設はこのBCPマニュアルの作成とそれに基づく震災対策訓練を一貫して支援しました。東日本震災後に、都立多摩総合医療センター・小児総合医療センターで同業務を実施した経験を持つ当社が、発災時の職員参集ルールや、震災対策訓練のシナリオなど、病院が検討すべき事項を抽出し、具体的に推進できるようにサポートしました。

このように、清水建設は最先端の災害に対する技術を駆使した建物をつくることにとどまらず、その性能を発揮するための運営のノウハウを合わせて提供し、病院のBCPをトータルに支援してまいります。

INTERVIEW 医療法人堀尾会・理事長に聞く

熊本大地震からBCPの重要性を実感

当院は、地域住民に対して可能な限りの医療の提供をしながら早期復旧を目指すBCPを策定しました。熊本大地震の際より厳しい被害状況を想定した訓練を通じて、災害に対する意識付けができたこと、そして病院内のスタッフのコミュニケーションをより高める機会となったことが良かった、と思いました。

清水建設には、BCP勉強会からマニュアル作成、震災対策訓練まで、一貫して

支援してもらえました。今後もこのような活動を通して安全安心な建物をつくってほしいと思います。(談)

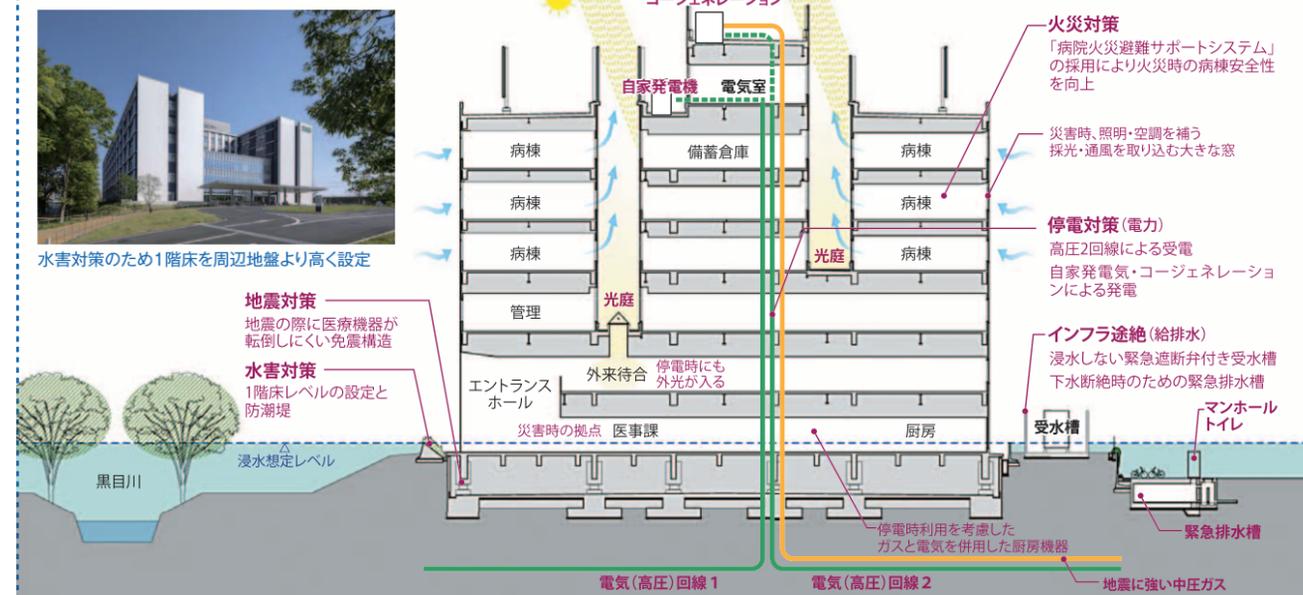
医療法人堀尾会 理事長 平田 好文 氏

熊本託麻台リハビリテーション病院での震災対策訓練の様子

1 エレベーター停止を想定した患者移送訓練

2 夜間発災を想定した少ない人員による震災対策本部の立ち上げ訓練

CASE 医療法人社団武蔵野会TMGあさか医療センター 災害時の入院治療継続を設定した病院BCPの例



お問い合わせ

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMZU CORPORATION

清水建設

<https://www.shimz.co.jp/>

清水建設 病院づくり

プロポーザル・ソリューション推進室 医療福祉計画部

TEL. 03-3561-2251